

平成 30 年 度 事 業 報 告 書

法人の名称 特定非営利活動法人バーンロムサイジャパン

1 事業の成果

今期（16 期）も引き続きタイ・チェンマイにある子どもたちのための生活施設「Ban Rom Sai Children's Home」や、周辺地域の社会的に困難な立場にある人々の支援活動を行いました。HIV に母子感染した孤児だけではなく、年々増加している犯罪や貧困などの理由により親と暮らすことのできない子どもたちを受け入れ、生活支援を提供、さらには卒園した 18 歳以上の子どもたちの生活、教育、医療、就労を支援する活動を継続しています。開設より 19 年目を迎えた現在、ホームには 28 名の子どもたちが暮らしていますが、18 歳での卒園に伴い、園外で暮らす子どもも年々増えており、現在では総勢約 60 名の「大きな家族」に成長しています。

特にバーンロムサイで創設以来継続して行っている地域住民との活動「地域プロジェクト」は、村から HIV/AIDS に対する偏見や差別がなくなるきっかけとなった大切な活動です。中でも今年度のサッカープロジェクトでは、奨学金や選抜トーナメント出場などのチャンスを手に入れた子どももあり、一昨年に始まったバレーボールプロジェクトとともに、子どもたちに様々な機会や選択肢を与えうる活動として、さらなる発展に向け尽力したいと考えております。

2 事業内容

(1) HIV 感染孤児並びに社会的に弱い立場にある人々（被差別にある少数民族、貧困など苦境の中で生活する人々や子どもたち等）への支援事業

- 1) 子どもたちのための生活施設 (Ban Rom Sai Children's Home) 運営の経済的・人的支援事業（2018 年 8 月 31 日現在、在園児童は 28 名）

Ban Rom Sai Children's Home の運営に係る経済的支援を行うとともに、現地 Banyan Home 財団と協働し、人的支援事業を行っています。寄付金が減少しているなか、収益事業を通じた収入が一層重要なものとなっており、17 期は更に注力するとともに、寄付金や助成金獲得についても積極的に取り組む予定です。また、人的支援事業については、子どもの年齢や能力に合わせた教育支援や生活指導等も含むため、現地財団タイ人スタッフとの連携を保ちながら、支援を継続していきたいと思っております。

- 2) HIV 感染孤児並びに社会的に弱い立場にある人々に対しての支援事業

- ① 周辺貧困地域の子どもたち、HIV 感染児へのスカラシップ事業（通年実施、裨益者 6 名）

卒園生のうち就学中の子ども（3 名）、また周辺地域の HIV 感染児童（3 名）に対し、生活及び学業の経済的支援を行っています。

- ② 18 歳以上で卒園する子ども（HIV 母子感染孤児）が AIDS を発症した場合の医療費及び生活支援、また必要に応じて一時シェルターの提供（16 期の裨益者 1 名）

体調を崩した卒園生に対し、生活支援を提供しました。回復後、現在はバーンロムサイジャパンが運営支援をするゲストハウス hoshihana village にて就労中です。

- ③ 地域プロジェクトを通じた地域支援・活性化、バーンロムサイの子どもたちとの交流

地域プロジェクトには下記のプロジェクトが含まれます：
・図書館プロジェクト（通年実施、裨益者 100 名）

バーンロムサイ敷地内にある図書館は、平日の夕方、近隣の子どもたちに開放しており、地域のコミュニティセンターのような役割を果たしています。パソコンルームも開放しており、家庭にパソコンがない子どもたちが宿題をする場所としても活用されています。

また図書館では識字率の向上、読書推進を目的とした「読書感想文コンクール」や「タイの重要な日 塗り絵コンクール」を実施しています。

「読書感想文コンクール」（通年実施、裨益者年間のべ 479 名）
読書の楽しみを知り、メモを取ることを学び、本の要点を理解し、また観察力を養うことに重点を置き、継続して開催しています。

「タイの重要な日 塗り絵コンクール」（毎月実施、裨益者年間のべ 546 名）
参加を通して、子どもたちは歴史を正しく理解し、タイの重要な日の内容、重要性を説明することができるようになっていきます。

- ・環境プロジェクト（年間 3 回実施、裨益者年間のべ 55 名）
ごみの分別等、環境問題への意識づけを目的としており、村の青年団と協力し、清掃活動を行いました。参加者にとって、環境や天然資源に対する考えを深めるきっかけとなっています。
- ・スポーツプロジェクト（サッカー、バレーボール、スポーツ大会開催）
技術向上だけではなく、子どものスポーツマンシップや協調性を育むこと、また地域との交流を主目的として活動しています。

「サッカープロジェクト」（毎週末実施、裨益者年間のべ 40 名）
男子児童を対象とし、外部指導者による出張レッスンなども交えながら、継続して活動しています。地域のトーナメントへも積極的に参加しており、好成績を収めています。またスポーツ奨学金を得て進学が決定した子どももおり、こういった実績が子どもたちのモチベーション向上につながっています。

「バレーボールプロジェクト」（毎週末実施、裨益者年間のべ 9 名）
タイでは、女子児童が休みの日に外に出てスポーツをすることはあまり一般的ではありませんが、女子児童にとっても定期的に運動することは、身体面、精神面の成長を促すうえで効果的な手段であるとの考えから、2016 年に女子バレーボールプロジェクトを発足しました。まだ始まったばかりのプロジェクトですが、サッカープロジェクト同様、女子児童にもあらゆる可能性に触れさせるべく、継続していききたいプロジェクトです。

「スポーツ大会」（2018 年 3 月に実施、裨益者年間のべ 125 名）
子どもたちが自らの能力を表現し、また創造的に考えることを練習する機会を提供するものとして継続して開催しています。16 期は卓球大会とペートン大会を開催し、競技に参加するだけでなく、会場や道具の準備、審判などにも参加させることで、役割を分担し、自分の担当を全うすることも学びました。

- ・レスキュー訓練実施（2018 年 3 月に実施、裨益者のべ 56 名）
16 期は消火訓練と、水難救助訓練を実施しました。タイでは学校や地域で本格的な防災訓練が行われないため、バーンロムサイが主催するレスキュー訓練は、役場、学校、また地域の保護者からも期待されている活動です。レクチャーと実技を組み合わせた訓練で、参加者は事故、災害に対して正しい知識を身に付け、事故発生時の初期対応を学びました。
- ・チェンマイ県・オムゴーイ郡山岳民族への支援活動（2017 年 12 月に実施）
バーンロムサイは、複数の団体が協働でチェンマイ県南部にあるオムゴーイ郡・カレン族の村に物資を届けに行く山岳民族支援プロジェクトに参加してい

ます。16 期は支援物資提供に加え、倒壊していた小学校の食堂の再建を支援しました。

7 年間、外部からの支援はほとんどなく、政府から補助があったとしても、ID を持っている子どもの分しか支給されない、という実情もあり、栄養不足による疾患も見られるこの地域において、食堂の再建でバランスの行き届いた食事を子ども達に支給できるようになります。また「水を煮沸して飲む」という習慣もないこの地域において、今後はこの食堂を拠点とし、食事衛生面に関するレクチャーを含む、健康面での支援を継続していきたいと考えています。

厳しい生活環境に暮らす山岳民族の方の人たちに必要な物資を届けるということの他に、バーンロムサイの子どもたちも参加させ、視野を広げてほしいと願いも込められています。

3) HIV 感染者、エイズ患者、少数民族出身者また社会的に弱い立場にある人々に対しての収益事業を通じたサポート

① 社会的に弱い立場にある人々に対する就労訓練や就業機会の提供

バーンロムサイジャパンが企画・運営支援を行う、バーンロムサイプロダクツの縫製場やゲストハウスにおいて、未だ残る偏見により、就職することが難しい HIV 感染者、エイズ患者、少数民族出身者を積極的に採用しています。

② 日本国内の障がい者への作業委託

バーンロムサイプロダクツの製作過程の一部を日本国内の障がい者授産施設へ作業を委託することで、国内の障がい者を支援しています。

③少数民族の伝統工芸品・技術の保持を目的とした商品の紹介、販売/提供

バーンロムサイジャパンが企画・運営支援を行う、バーンロムサイプロダクツの縫製場では、少数民族の古布を商品にリメイクしたり、織りや染めを採用するなど積極的に彼らの技術を取り入れています。またゲストハウスでは、少数民族の伝統料理をレストランで提供することで、彼らの文化を紹介しています。

(2) 芸術・文化・創作活動による、HIV/AIDS 等社会的課題に関する普及啓発活動

1) HIV 感染児童らが描いた絵画をモチーフにした商品の展示・販売による啓発活動

カード類、T シャツ、ポーチなど幅広く展開しており、チャリティイベントをはじめ、日本・タイ各地で展示販売をしました。

2) チェンマイにある縫製場で働く HIV 感染者ならびに少数民族出身者による製作物の展示販売による啓発活動

3) 映像、写真やパネル展示を通じた活動紹介

16 期は銀座伊東屋にて「バーンロムサイの絵本「ホシハナ文庫」創刊記念イベント」を開催し、のべ 1500 名超の来場者がありました。アートを切り口にしたことにより、より多くの人に HIV/AIDS をはじめとした社会的課題に触れて頂く機会となりました。

4) 創作活動を通じたアートセラピーの実践やワークショップの開催

(3) その他

1) 国内外でのイベント、高校・大学からのスタディーツアー受け入れ等を通じた HIV/AIDS に関する啓発活動（16 期のスタディーツアーの受け入れは 4 校）

2) 国内外におけるファンドレイジング

3) タイ北部の手仕事・技術・アートを生かしたものづくり及びゲストハウスの企画・運営支援

4) 収益事業（プロダクツ事業）

直営のバーンロムサイ鎌倉ショップ、オンラインショップ、また日本各地で開催される企画展（16 期は 33 か所にて開催）を通じて、生活施設に隣接する縫製場で製作する衣類、雑貨類の紹介と販売事業を行っています。

＊ゲストハウス運営事業及び、プロダクツ事業のうち商品等の製作に係る業務に関しては、2017 年 6 月 1 日付でタイ国内の法人に移管しております。